

耕作放棄地を活用し、和気の魅力を発信、伝える

～最高の土地への進化～

耕作放棄地班 岡山県立和気閑谷高等学校1年 中家、中原、山口、佐々木

閑谷學(総合的な探究の時間)

1 目的

- ◎増え続ける和気町の耕作放棄地を活かし、和気町の魅力を発信し、伝える

2 先輩たちからの引き継ぎ

【先輩たちの取り組み】

- ◎耕作放棄地を耕して作物を育てられるようにした
- ◎実際に、さつまいも・かぼちゃ・じゃがいも・きゅうり・トマトを植えた

【成果】

- ◎今まで雑草だらけで活用されていなかった耕作放棄地を活用したこと

【課題】

- ◎魅力を発信、伝えることはできなかった
- ◎野菜の栽培は草抜きや水やりなどの手入れが多く、管理が難しかった



3 引き継ぎを踏まえての仮説

【仮説】

お花畑を作ることによって、注目されやすく魅力を発信しやすいのではないだろうか

【仮説設定の背景】

- ◎先輩たちが実現できなかった「魅力を発信、伝える」ことに今年力を入れたい
- ◎花を植える方が管理がしやすい
- ◎耕作放棄地が山陽本線沿いにあるため、電車に乗っている人たちも楽しむことができる



4 これまでの取り組み

【取り組み】

- ◎耕作放棄地に行き、草抜きをし土地の状況確認
- ◎先輩たちが植えたサツマイモの芋ほり

【わかったこと】

- ◎草抜きは人力では限界があり、集中力が続かない
- ◎収穫したサツマイモも小さく、土に栄養がない



芋ほりの様子

5 これからの取り組み

【土地活用について(案)】

- ◎和気町役場から草刈り用のラジコンを定期的にレンタルし、効率よく行う
- ◎防草シートなどを活用し、草がそもそも生えづらいようにする
- ◎土地を耕したりして痩せづらいようにしていく

【魅力発信について(案)】

- ◎耕作放棄地班以外にも「全国募集PR班」があり、この班ではInstagramやTikTokを活用しながら本校の魅力を発信しようと考えている
- ◎この班とタッグを組んで、SNSを通じて魅力を発信していく

